FREE
ご自由に お持ちください。

No.858
2025 March
3

岐阜県の森林・林業

森林（もり）のたより

News of the forest

根尾谷淡墨ザクラ

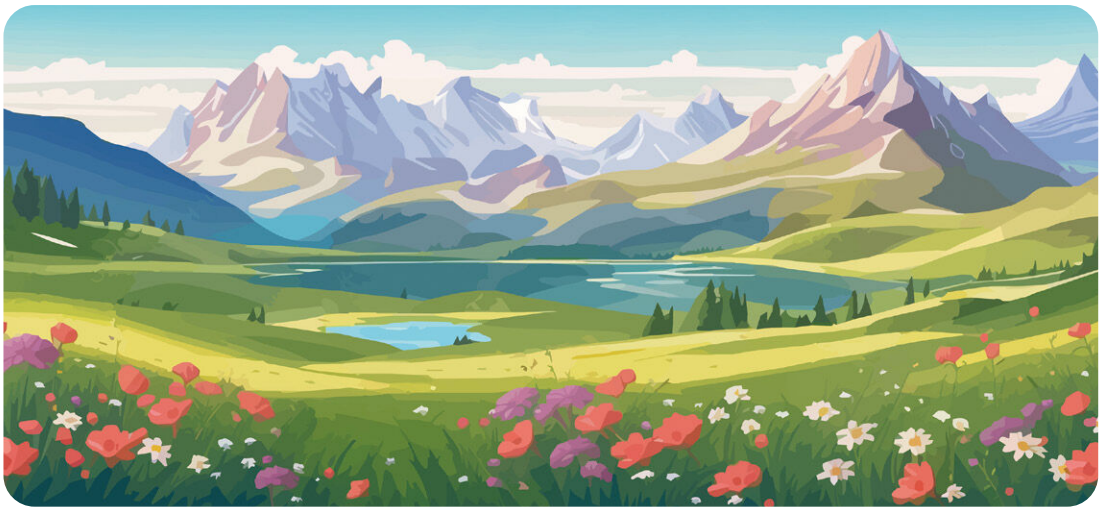
－ 国指定天然記念物 －

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp （公社）岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

森林・林業関係イベントカレンダー（3月～5月）

一般向け

開催日	行事名等	内　容　等	場　所 申込（問合せ）先／TEL
3月1日(土)～ 5月31日(土)	**緑の募金(春期)**	「緑の募金で進めようSDGｓ」をスローガンに家庭募金、企業募金、職場募金などを行います。 ４月６日(日)に岐阜市「道三まつり」で、岐阜市緑の募金委員会とともに街頭募金を行います。	JR岐阜駅 公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL：058-273-7577
3月11日(火)～ 4月6日(日)	**岐阜県緑化運動ポスターコンクール入賞作品　展示**	令和６年度岐阜県緑化運動ポスターコンクール入賞作品49点をぎふ木遊館にて展示します。 【ぎふ木遊館の施設案内】 ●開館時間：10:00～17:00 ●入賞作品の観覧は、予約不要・入館料無料 ※ただし、木育ひろばの利用は、事前予約制で入館料(大人３００円、高校生以下無料)が別途必要 ●休館日:毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌平日)、施設点検日(3月25日～27日)	ぎふ木遊館 TEL：058-215-1515 森林活用推進課 TEL：058-272-8255



目次 Contents

イベントカレンダー（一般向け）……2
令和６年度 岐阜県緑化運動ポスターコンクール入賞作品が決定しました！……3
企業との協働による森林づくり……3
岐阜県みどりの少年団活動発表大会を開催しました。……4
シリーズ『ぎふ木育全県展開』③　～中濃地域～……5
森林技術者確保に向けた新たな取り組み……6
広葉樹伐採人材養成研修を開催しました……7
岐阜県緑の博士(グリーンドクター)を認定しました……7
令和６年度 木質バイオマス利用ボイラーの導入に関する研修会を実施しました……8
地域の人　株式会社　恵那ジビエ……10
山の歳時記(235)　オオイヌノフグリ……11
ぎふ木遊館通信……12
moringos　プログラム紹介!!……13
シリーズ：『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”(11)……14
森林と人を活かす知恵(146)　アカデミーから木育の多様性を広めよう……15
木の香るぎふの施設(143)　住まい居るメディカ３号館(有料老人ホーム)……16
研究コーナー　シカの食害を防止できるツリーシェルターの高さを考える……17
普及コーナー　岐阜地域における普及活動について……18
森林技術開発・支援センター　きのこ通信(7)……19
国有林の現場から(101)　「安全安心」地域とともに 治山事業の現場見学会を開催……20
林業者向けお知らせ……21
市況……22

表紙●淡墨公園(本巣市)にある樹齢1500年を超えるエドヒガンの古木。大正11年に国の天然記念物に指定される。樹高17.3m、幹囲目通り9.4m(写真提供:本巣市観光協会)

令和6年度 岐阜県緑化運動ポスターコンクール 入賞作品が決定しました！

県では、県民の緑化についての普及啓発を図るため、毎年、県内の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校及び高等専門学校の児童、生徒を対象に「岐阜県緑化運動ポスターコンクール（後援：岐阜県教育委員会、（公社）岐阜県緑化推進委員会）」を実施しています。

令和6年度は、２６０点の応募があり、審査の結果、入賞作品４９点が決定しました。

なお、入賞作品は、令和7年3月11日（火）から令和7年4月6日（日）まで、ぎふ木遊館にて展示します。（詳しくは2ページの森林・林業関係イベントカレンダーをご覧ください。）

最　優　秀

小学校低学年の部

養老町立日吉小学校3年
若山（わかやま）　心実（このみ）さん

小学校高学年の部

海津市立下多度小学校5年
野崎（のざき）　涼太（りょうた）さん

中学校の部

山県市立美山中学校3年
林（はやし）　千加（ちか）さん

高等学校の部

岐阜県立岐阜城北高等学校1年
後藤（ごとう）　紗彩（さあや）さん

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8255　森林活用推進課　森林吸収源対策室　緑化推進係まで

企業との協働による森林づくり

県では、県民協働による森林づくりの一環として、「企業との協働による森林づくり」を推進しています。令和６年７月から新たに3件の森林づくり協定を締結し、協定締結件数は37件（うち４件は期間終了）となりました。

35 Present Tree in 飛騨高山

令和6年8月29日に、認定NPO法人環境リレーションズ研究所（東京都千代田区）、株式会社小林三之助商店（岐阜市）、高山市及び県の4者で、森林づくり協定を締結しました。「Present Tree」とは、都市部と地域の方々が交流しながら、造林未済地などに木を植えて育てるプロジェクトです。

○場　　所：高山市清見町巣野俣地内（面積9．００ ha）
○森の名称：「Present Tree in 飛騨高山」
○協定期間：令和6年8月29日～令和26年8月28日（20年間）
○主な活動：植林、下刈りなど森林整備活動

36 豊田合成　樹守の里

令和6年9月16日に、豊田合成株式会社(愛知県清須市)、美濃加茂市及び県の３者で、森林づくり協定を締結しました。里山整備、歩道整備等の森林整備活動を実施することにより、森林づくりに貢献するとともに、地域社会との交流を図ることとしています。

○場　　所：美濃加茂市山之上町地内（面積1．５０ ha）
○森の名称：「豊田合成　樹守の里」
○協定期間：令和6年9月16日～令和11年3月31日（４年間）
○主な活動：里山整備、歩道整備など森林整備活動

37 シミズめぐりの森　郡上

令和6年11月20日に、清水建設株式会社(東京都中央区)、有限会社古川林業（郡上市）、郡上市及び県の４者で、森林づくり協定を締結しました。植林及び間伐等の森林整備活動を実施することにより、森林づくりに貢献するとともに、将来の木材調達の礎とします。

○場　　所：郡上市八幡町那比川戸洞地内（面積３．７９ ha）
○森の名称：「シミズめぐりの森　郡上」
○協定期間：令和６年１１月２０日～令和１２年３月３１日（５年間）
○主な活動：植林、間伐など森林整備活動

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8255　森林活用推進課　森林吸収源対策室　緑化推進係まで

岐阜県みどりの少年団活動発表大会を開催しました。

令和7年1月18日（土）に森林文化アカデミー　森の情報センターにおいて、岐阜県及び公益社団法人岐阜県緑化推進委員会の主催による「令和6年度岐阜県みどりの少年団活動発表大会」を開催し、小学生がメンバーのみどりの少年団4団と中学生がメンバーの緑化少年団1団が、1年間の活動成果を発表しました。

審査の結果、「付知南小学校みどりの少年団」が昨年度に引き続き最優秀賞に選ばれました。

発表では、みどりの少年団で長年続けている森林を知る「森林教室」、林業の仕事を知る「林業教室」、間伐体験、製材所の見学など森林とかかわる活動について元気よく紹介しました。

また、1年生から6年生までが学年に応じた内容で木育に取り組んでいることも高く評価されました。

みどりの少年団・緑化少年団の皆さんには、少年団の活動を通じて新たな発見や驚きを共有し、森林や緑を愛し、守り、育てる心を大切に、団員みんなの力を合わせて楽しく活動に取り組んでいってほしいと思います。

発表少年団及び審査結果

最優秀賞	**付知南小学校みどりの少年団**（中津川市）
優秀賞	**清見中学校緑化少年団**（高山市） **北方小学校みどりの少年団**（揖斐川町）
奨励賞	**中野方小学校みどりの少年団**（恵那市） **明宝小学校みどりの少年団**（郡上市）

付知南小学校みどりの少年団の発表

清見中学校緑化少年団の発表

北方小学校みどりの少年団の発表

発表したみどりの少年団の皆さん（表彰式）

【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会　専務理事　田中敏隆】

シリーズ

ぎふ木育全県展開 3

～中濃地域～

県では、「ぎふ木育」を全県展開するため、10箇所の農林事務所ごとに、地域で活動する木育関係者の交流会や、行政と意見交換する連絡会議を開催しています。その開催状況や、地域でぎふ木育を進めるキーパーソンを、12月号からシリーズで紹介しています。今号は中濃地域です。

交流会・連絡会議を開催

令和5年9月12日にぎふ木育中濃地域連絡会議を開催し、ぎふ木育推進員である　NPO musubi　代表の吉田理恵さんが中濃地域の代表に就任されました。中濃地域の課題等に取り組んでいただくため、まずは「企業の森」活動において「木育」の普及・啓発に協力して頂きました。

中濃地域のキーパーソン

吉田　理恵さん（NPO musubi）

Q 活動するうえで大事にしていることは何ですか？

木育は日本の文化や日本人の心を伝える手段として素晴らしい教育活動だと考えています。そして、「木育」を通して人にも森（山）にも、地域にも“喜ばれること（社会貢献）”をする」という考え方で活動をしています。

特に講座を依頼される時には私たちに「何を求めるのか」、講座は「何のために実施するのか」、相手にとって「何が課題か」、などを丁寧に聞き取り、目的に沿った講座になるよう心がけています。

今回「企業の森」での活動の目的に、整備活動だけでなく「社員同士の親睦を深める機会にしたい」という目的もあったため、木工を通してコミュニケーションが深まるような工夫を考えました。相手に寄り添ったオーダーメイドのプログラムを構築しています。

Q 「ぎふ木育」を中濃地域で推進するうえで必要なことは何だと思いますか？

中濃地域には森林文化アカデミーがあることもあり、私も含め卒業生などの関係者も非常に多い地域です。そのため、誰が（どの団体が）何を強みとして、どのような取り組みをされているかを把握し、様々な森林の課題解決に向け、適地適材でコーディネートしていく役割が今後重要になっていくのではないかと考えています。

関市では子ども家庭課、農林課、高齢福祉課が繋がりを大切にしながら木育を通してそれぞれの課題解決に臨んでおり、このような他部署や他機関との連携も今後は必要だと思います。そこにもコーディネートする役割は重要となっていくと思います。

県下初　企業の森への活動にぎふ木育推進員を起用

令和6年3月13日に「エコピアの森　関」の関係者であるブリヂストン、関市及び地元等の了承を得て、森林教育及び木工体験の活動において、参加する大人から子どもまで楽しめる木育に関する活動を吉田さんに指導してもらうことにしました。

吉田さんは、関市で生涯現役支援員としても活動しており、高齢福祉課が育成するボランティア「アクティブGメン♪75」の方々と共に木工指導をしてもらいました。全世代参加型の森林教室では企業の仕事内容と森林の関係をクイズにしたりして工夫されていました。今後も活動の場を広げて「ぎふ木育」に関わる方々が増えていくように農林事務所としても推進していきます。

※アクティブGメン♪ 75
ACTIVE ーアクティブシニア
G ー元気
MEN ーメンバー
75 ー健康寿命75歳以上

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8821 森林活用推進課 木育推進係まで

森林技術者確保に向けた新たな取り組み

岐阜県内で林業を学べる高校は、5校（岐阜農林高校、郡上高校、加茂農林高校、恵那農業高校、飛騨高山高校）あり、熊本県と同じく全国で最も多い数となっています。

しかし、生徒数の減少により、森林環境系学科を専攻できるのは二年生からという学校が増えていることや、演習林が高木となり利用できないなど、在学期間中に実践的な林業を学ぶ機会が減っています。

そこで、県内の農林高校生に対して、より身近に森林や林業の仕事を知る機会を増やすため「知り・学ぶ」「仮想体験する」「交流・体験する」の3段階で学ぶキャンパスプロモーションの取り組みを進めています。今回は、こうした取り組みに加え、高校生の職場体験、チェンソー技術交流コンテストの概要を紹介します。

キャンパスプロモーション

【知り・学ぶ】

県農林事務所と地域の林業事業体が連携して、各農林高校に赴き林業の仕事内容の説明や森林技術者との意見交換などを行いました。

【林業ボードゲーム】

長い年月を経て森を育て木材を生産する林業経営を短時間で、より深く興味を持ってもらうきっかけとして、対戦形式で林業経営を仮想体験する林業ボードゲームを取り入れています。保育作業では自然災害や獣害への対策、木材生産では道づくりや高性能林業機械等を購入して森を整備します。整備した森の成長度（育林チップ）と資金（紙幣）の合計を競うもので、楽しみながら環境と経済のバランスを学ぶゲームです。

対戦で白熱する生徒たち

【ぎふ林業甲子園2024】

県内農林高校対抗の「ぎふ林業甲子園２０２４」では、林業の仕事に関連する８種目を競う大会を開催しました。詳しくは、森林のたより12月号（No.８５５）をご覧ください。

インターンシップ

林業就業に興味を持つ生徒を対象に2～3日間のインターンシップを実施しています。今年度、郡上高校では、二年生全員が市内の林業事業体等へインターンシップを行い、生徒が感想等を伝える発表会を開催しました。

チェンソー技術交流・コンテスト

プロの森林技術者と森林文化アカデミーの学生、選抜された高校生が、日本伐木チャンピオンシップ競技種目の「伐倒競技（簡易）」と「丸太合わせ輪切り競技」のチェンソー技術を競うコンテストを森林文化アカデミーのフィールドで開催しました。

開催にあたり、高校生のチェンソー資格取得や練習資材提供、技術指導など、アカデミーや各高校の先生方や事業体の森林技術者などから全面的な協力をいただきました。

学生の丸太合わせ輪切り競技

高校生は、初めての競技への参加でしたが、チェンソー技術に磨きをかけるため朝早くから登校して練習を重ねていたようです。

競技を通じチェンソー技術の向上と森林技術者と学生との交流が図られました。このコンテストでは、選手・スタッフがお揃いのユニフォームTシャツを着用することで、より一体感が生まれる大変有意義な大会となりました。

選手・スタッフの集合写真

振り返り

森林技術者の確保に向けた特効薬はなく、粘り強い取り組みが必要です。

今回の取り組みでは、将来を担う高校生に対して、教育機関・林業関係業界・行政がタッグを組み前に進める事ができたのは、大きな成果であり、来年度もこうした取り組みを加速させますので、引き続きご理解ご協力をお願いします。

【森林経営課　担い手企画係】

広葉樹伐採人材養成研修を開催しました

昨年 11 月 28 日（木）、29 日（金）の２日間にわたって、「広葉樹伐採人材養成研修」を開催しました。

高齢化などで広葉樹の伐採者が年々減少し、きのこ原木などの特用林産物の生産資材不足が課題となっています。そこで、県では、広葉樹の伐採者の養成及び広葉樹資源の活用促進のため、今年度新たな取組として本研修を企画しました。

当日は、県内の林業従事者など 10 名が参加し、広葉樹の伐採・造材に関する知識や技術を学びました。

28 日は、県立森林文化アカデミーにて、県から県内の特用林産物生産の現状について説明を受けたのち、しいたけ原木や薪を生産されている (有)green labo の芝山さんを講師に迎え、様々な広葉樹の利用方法や伐採、搬出に係る基礎知識を学びました。また、加茂郡川辺町にある原木しいたけ生産者 (有) しいたけブラザーズを見学し、伐採された広葉樹がしいたけ原木としてどのように利用されているか、どのような原木が求められているかを学びました。

29 日は、高山市内の山林にて現地講習を実施しました。あいにくの天気の中でしたが、実際にチルホールを利用してコナラを伐採、玉切りし、各利用方法における造材のコツなどを学びました。

参加者からは、想像以上に細かい作業で、広葉樹の造材作業の奥深さを感じることができた、などの感想をいただきました。

今後も、今回の研修のご意見等も踏まえ、広葉樹伐採人材の養成を含め様々な方面から特用林産物の振興に取り組んでいきます。

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8483 県産材流通課　資源活用係まで

岐阜県緑の博士（グリーンドクター）を認定しました

県では、名木・巨樹・古木などの貴重な樹木の保護・保存を図るため、平成7年度から、樹木の生理・生態等の知識を有し、樹木の保護・治療を体系的、総合的に判断できる専門技術者を「岐阜県緑の博士（グリーンドクター）」として、認定しています。

岐阜県緑の博士は、経験と知識レベルにより３A級、２A級、A級の３段階に区分（３A級が最も高度）されています。

このたび、1名の方がA級に認定され、令和7年1月30日に認定証授与式を開催しました。認定されました方には、地域に根ざした「樹木の専門家」としてご活躍いただくことを期待しています。

被認定者

A級　大橋（おおはし）　卓浩（たくひろ）さん（海津市）

岐阜県緑の博士（グリーンドクター）

岐阜県が認定する公的な資格で、これまでに176名（3A級9名、2A級28名、A級139名）を認定。認定された方は地域の樹木保護や緑化推進に貢献されています。

認定証授与式

●詳しい内容を知りたい方はTEL 058-272-8255 森林活用推進課　森林吸収源対策室緑化推進係まで

「令和6年度 木質バイオマス利用ボイラーの導入に関する研修会～中山間地域におけるカーボンニュートラルの実例に学ぶ～」を実施しました

大垣市上石津町において県主催で木質バイオマス利用ボイラーの導入に関する研修会を実施しました。

【研修会の概要】

木質バイオマス利用施設の導入を検討している事業者、行政関係者等を対象に、持続可能なエネルギーである木質バイオマスを地域内で循環利用する取組みをカーボンニュートラルの観点から学ぶ研修会です。

●日時
令和6年12月25日(水)10：00～15：00

●場所
(1)大垣市上石津地域事務所【現地・座学】
(2)木の駅上石津【現地】

●参加者
木質バイオマス利用施設の導入を検討している事業者、岐阜県木質バイオマス利用アドバイザー、市町村職員、県職員等　合計20名

●内容

1　現地研修①

●対象施設：木質バイオマス利用ボイラー（大垣市上石津地域事務所敷地内設置）

●講師：
・大垣市上石津地域事務所
地域政策課　堀本　直紀氏
・株式会社森の仲間たち
代表取締役　森　大顕氏

これまで大垣市上石津地域事務所庁舎では、隣接する上石津農村環境改善センターと併せて冷・暖房用に灯油炊きボイラーを使用してきました。

平成29年度に公益財団法人イオン環境財団の支援を受け、地域内の木質バイオマス資源賦存量調査、薪加工システム・木質バイオマス利用ボイラー導入の実現可能性調査を実施した結果、地域からの燃料調達や採算性の見込みが立ったため、暖房用に以下の機器を導入しました。

【導入設備】

◆木質バイオマス利用ボイラー1台（ドイツ製・170kW）

◆蓄熱タンク2台（計10，000L）

木質バイオマス利用ボイラーの燃料は薪（ボイラーの規格に合わせて1mにカットされたもの、樹種はスギ・ヒノキ）で、木の駅上石津実行委員会(※1)から年間50㎥を購入しています。

木質バイオマス利用ボイラーの運用にあたって、朝・昼・夕方に1日あたり3回の薪投入（約0.3㎥／回）が必要なため、市職員が当番制で薪を投入しています（休日など市職員が不在の時は、元々設置されていた灯油炊きボイラーに切り替え）。

当日は、研修参加者による薪投入体験を実施しました（職員が朝に投入する薪の分量の約半分を実際に投入）。

参加者からは、投入時間は1回あたり約10分であることから、思ったより負担は大きくないという声が多く聞かれました。

【研修実施状況】
鉄製ラックに積まれた薪をリフティングローラーで移動する研修参加者

【研修実施状況】
研修参加者による薪投入体験のようす

2　現地研修②

●対象施設等：木の駅上石津

●講師：木の駅上石津実行委員会
実行委員長　坂口　智之氏

木の駅上石津は、平成23年4月から活動を開始し今年で14年目を迎えます。活動内容は「木の駅プロジェクト」(※2)の運用であり、地域通貨「里山券」を地域内の登録店15店舗で使用できるようにし、資金を地域内循環させることにより地域経済の活性化に寄与しています。

会員数は現在29名。70・80代の高齢者が中心ですが、40・50代の会員もいます。会の取組みは高齢者の生きがいになっているだけでなく、会員の中には移住者が5人程おり、高齢者との交流の場にもなっています。

岐阜県清流の国ぎふ森林・環境基金事業により林地残材の搬出支援を受けるなど活動を継続しています。

直近3年間の実績は以下のとおりです。当初はチップ業者等への販売が中心でしたが、薪割り機を購入し付加価値を付けて販売を行うなど活動が進化しています。

【木の駅上石津実行委員会の活動状況】

◆搬入量：１９０㎥／年（R３～５年平均）
◆売上高：１，３５０千円／年（同上）
◆主な供給先：大垣市上石津地域事務所、石窯ピザ屋（大垣市）、キャンプ場（三重県いなべ市）

坂口実行委員長からは、小遣い稼ぎ程度に無理せず取り組むことが活動を長く続けるコツであるとの説明がありました。また、愛知県からのＩターン者である森氏が上石津町で起業し「㈱森の仲間たち」を設立したことで地域人材の育成に貢献できたことが、木の駅上石津の最大の成果であるとの説明がありました。

※１　木の駅上石津実行委員会：上石津地域内で間伐後林内に放置された間伐材の収集を行う任意団体。

※２　木の駅プロジェクト：林内に放置された林地残材を収集し、その木材売上を地域通貨で会員に支払うことで資金を地域内で循環させる全国的な取組み。恵那市中野方地域が全国で初めて行っており、上石津町は全国で４番目に開始。

【研修実施状況】
坂口実行委員長による木の駅上石津の取組みについての説明

３．座学研修①

●内容：大垣市上石津地域事務所薪ボイラーの運用状況について
●講師：大垣市上石津地域事務所　地域政策課　堀本　直紀氏

薪ボイラー導入の経緯及び運用状況は、「１．現地研修①」にあるとおりです。

導入前の検討内容のとおり、昨今の灯油価格の高騰により、燃料費において灯油よりも薪の方が優位になってきています。

堀本氏からは市職員が当番制で薪投入することは、職員自らが地域の木質バイオマスの有効利用、ひいてはカーボンニュートラルに繋がる取組みであることを自覚する良い機会となっているとの説明がありました。

【研修実施状況】
堀本氏による説明（灯油炊きボイラーと木質バイオマスボイラーの切り替えについて）

４．座学研修②

●内容：木質バイオマス利用ボイラー導入に係る設計について
●講師：株式会社森の仲間たち　代表取締役　森　大顕氏

森氏が上石津地域における木質バイオマス利用の取組みに関わったことが契機となり、大垣市上石津町を本社所在地とする「（株）森の仲間たち」を設立しました。今期で12期目。

同社は、これまで全国で１００件以上の木質バイオマスボイラーの導入に携わってきました。その他に、薪ボイラー導入のコンサルティング、コーディネートなども行っています。

当日の講義では、薪ボイラー導入の具体的な設計事例の説明や設計に関わる専門的な話がありました。

木質バイオマスは地域の行政をはじめ様々な関係者が関わる必要があることから「まちづくり」に等しい取組みであるとの説明もありました。

燃料材の調達には地域の様々な関係者が関わるため多層的な取り組みとなり経済波及効果が大きいが、関係者の合意形成はもちろんのこと、目的を明確にして関係者全員が納得して進めないと長続きしないといった示唆に富んだ話もありました。

５．座学研修③

●内容：令和６年度岐阜県木質バイオマスエネルギー支援策の紹介
●講師：岐阜県 林政部 森林経営課　木質バイオマス産業係　和田　将也

森氏の講義でも説明があったとおり、木質バイオマス利用ボイラーの導入は単なる機器の導入に留まらず、燃料材集荷から始まる地域内資源循環におけるサプライチェーンを構築する取組みであるため、資源利用システムの導入という視点が必要となります。

そのため、県では、令和５年度から「岐阜県木質バイオマス利用アドバイザー制度」を導入し、現在３名のアドバイザーを認定しています。

木質バイオマス利用ボイラーの導入にあたっては、本アドバイザー制度を活用するなど計画段階からこれらの専門家等による指導を受けるよう説明を行いました。

「令和６年度岐阜県木質バイオマス利用優良事例」の受賞（【県民協働部門】最優秀賞:木の駅上石津実行委員会、【施設部門】優秀賞:大垣市上石津地域事務所）

【森林経営課　木質バイオマス産業係】

恵那ジビエ

株式会社　恵那ジビエ

ゼネラルマネージャー　稲垣 太朗さん

近年、林業業界では、主伐・再造林が大きなテーマとして取り扱われています。再造林を進めていく上で、鳥獣害対策が大きな課題となっています。

鳥獣害対策を考えるときに、二つの要素があります。一つは、単木保護資材や防護柵を設置し、ニホンジカやイノシシからの被害を防ぐ「守る方法」と、被害原因となる鳥獣を捕獲する「攻めの方法」です。

現在、林政部では「守る方法」として、再造林時のシカ防護柵等の施設整備の補助を行っています。また、農政部では「攻めの方法」として鳥獣の捕獲に対する補助を行っています。

今回は、恵那市明智町で捕獲された鳥獣をジビエとして活用している株式会社恵那ジビエのゼネラルマネージャー稲垣太朗さんにお話を伺いましたので紹介します。

稲垣さんの経歴

名古屋で働いていた稲垣さんは、自給自足の生活に憧れ、恵那市山岡町に移住しました。移住後は稲作、養鶏、林業などに取り組み、農林業への鳥獣被害を減らすために狩猟免許を取得し、猟師としても活動を始めました。

もともと飲食業に従事していたため、ジビエにも興味を持ち、株式会社恵那ジビエから誘いを受け、令和6年から捕獲者兼食肉加工者として働いています。

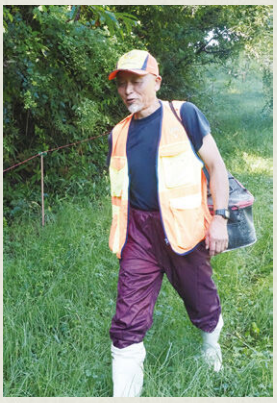
恵那ジビエでの主な仕事について教えてください。

朝一に自分の設置した罠を見回りし、他の猟師から連絡があれば現地まで回収に出向いています。現在は主に恵南地区を中心に回収を行っています。回収後、施設で解体し、精肉にします。

その他にも、精肉した商品の販売や開発、イベントへの出店を行っています。最近は、食肉用の商品のほかにペット用の商品も人気があり、イベントで当社を知っていただき、その後直接購入に来てくださるお客さんもみえます。

林業の鳥獣害対策についてどう思いますか。

防護柵や単木保護資材なども必要な対応だと思いますが、根本的な解決策としては、適正な個体数へ生息数を減らすことが重要だと考えます。そのためには、積極的な捕獲が必要です。農作物被害が大きく報道されることもありますが、野生鳥獣の生息域は山林です。最近では、ニホンジカを対象とした小林式誘引捕獲などの新しい捕獲方法も考案され、初心者でも比較的簡単に捕獲できるようになってきました。ぜひ林業関係者の皆様も、捕獲という方法を意識していただければと思います。



おわりに

恵那ジビエでは恵那の自然の中で人間と鳥獣の共存を目指し、地域活性化に貢献できる取組みを行っています。

ジビエをいただくことは農林業の保護や生態系を守ることに繋がります。皆さん是非ジビエを食べてください。

（株）恵那ジビエ

ＴＥＬ０５７３－３８－０５０５

（鳥獣の捕獲については、法律で規制されておりますので、法律を遵守するよう注意してください。）

【恵那農林事務所　中田】

山の歳時記 235
YAMA NO SAIJIKI

オオイヌノフグリ

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

「ここにあるのは外来種のオオイヌノフグリですね」、森の入り口で瑠璃色のかわいい花を咲かせたオオイヌノフグリを見つけました。

オオイヌノフグリ（Veronica persica）は西アジア～ヨーロッパ原産のオオバコ科クワガタソウ属の越年草です。明治初期（1887年ごろ）に、牧草とともに持ち込まれたとされる帰化植物で、日あたりの良い場所を好みます。秋に発芽して、縁に粗い鋸歯がある長さ1～2㎝の葉を茎に対生させ、地面を這いながら茎を分枝させて広がり越冬します。翌年の春には葉腋から花柄を出して直径約7㎜の花を咲かせ、夏には枯れてしまいます。

花冠は長さ約1㎝で深く4裂し、4枚の花弁があるように見えますが、基部はつながっており、明るい日差しで花を開き、夜は閉じる1日花です。

花色が瑠璃色であることが属名Veronicaの由来で、十字架を背負い処刑場であるゴルゴダの丘に向かうキリストに、汗をぬぐうための瑠璃色の布を差し出した聖女St.Veronicaの名に因んでおり、種小名のpersicaはペルシャのという意味です。

よく似たものに日本在来種のイヌノフグリ、帰化植物のタチイヌノフグリやフラサバソウがありますが、花はいずれもオオイヌノフグリよりも小さく目立ちません。

日本のイヌノフグリは花が直径約3㎜と小型で、花色も淡紅白色に紅紫色の筋（条）が入ります。葉も長さ約8㎜と小型で、オオイヌノフグリとは簡単に見分けられます。

イヌノフグリは最近では古い石垣など、限られた場所でしか見られなくなり、岐阜県でも絶滅危惧Ⅱ類に指定されるほど珍しくなっています。

イヌノフグリが減少し、オオイヌノフグリが増殖した理由の1つに、オオイヌノフグリの自家受粉能力が挙げられます。両者とも1日花で虫による他家受粉（虫媒花）が基本ですが、オオイヌノフグリは昼間に他家受粉できなくても、夕方に花が閉じる過程で雄しべを曲げて雌しべに自家受粉させられますが、イヌノフグリは雄しべよりも雌しべの方が長く、基本的に自家受粉しにくいのです。

またイヌノフグリの花期は3～4月なのに、オオイヌノフグリは昆虫類がまだほとんど活動しない1月から咲く点でも有利なのです。

最後にイヌノフグリの名の由来ですが、2個連結してハート型に見える丸みのある蒴果（果実）を、犬の陰嚢（フグリ＝睾丸）に見立てたものです。

雑草扱いされ気味のオオイヌノフグリですが、じっくりと見ると意外とかわいい花なのです。

かわいい瑠璃色の花を咲かせる
オオイヌノフグリ

ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館では、大型木製遊具や木のおもちゃで楽しく木にふれあってもらうこと以外に、土日・祝日を中心に、季節に合った遊びや木のものづくりなどの木育プログラムを開催しています。

今回はその中の「木のねんどで消臭ボールづくり」と「けん玉やってみよう！」の2つのプログラムを紹介します。

木のねんどで消臭ボールづくり

講師はぎふの木ネット協議会の伊藤なるみさん。ギャラリー企画展「ぎふの木ネット協議会　岐阜の森について考える企画展」の一環として、ヒノキの端材を利用した塗り壁材を「木のねんど」として、消臭ボールを作るプログラムを行いました。

絵具で着色された木のねんどを小さなお団子状に丸めて、持ち帰り用のカップに入れていきます。お団子屋さんのように手早く量産する子もいれば、木のねんどの感触を楽しむようにじっくりと作り、カップいっぱいになる前に満足する子もいるなど、それぞれの楽しみ方をしていただけました。

使用するのは塗り壁材ということで、泥っぽい感触を想像していましたが、実際はややザラッとしており木の質感を感じました。そして何より、木の香りが豊かで、付き添いの親さんも感心していました。

消臭ボールは乾いてからも木の香りが続くとのことで、改めて木の可能性を感じるとともに、端材の有効活用を学べるプログラムでした。

感触を楽しみながら丸める参加者

塗り壁材を混ぜるところも体験

塗り壁材は木の匂いがするね

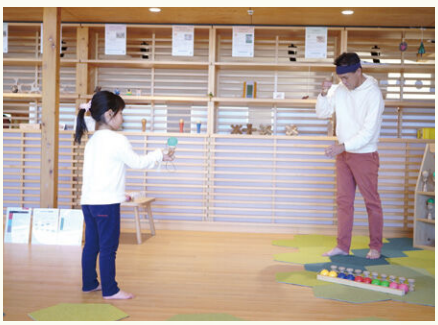
けん玉やってみよう！　～けん玉スキルの検定会も開催～

講師はながらけん玉コミュニティの宮川真澄さん。どなたでもけん玉にチャレンジでき、希望があればけん玉のスキルを認定する検定を受けられるというもので、木育ひろばの一角で第1部と第2部に開催されました。

第1部では、初めてけん玉にチャレンジする女の子がいました。ずっとけん玉を持って自分のペースで練習していましたが、終わり間近になって、基本の技をビシッと決められるようになりました！

第2部は、木育ひろばで遊ぶお子さんの年齢層が高かったこともあり、けん玉コーナーは常に多くの方でにぎわっていました。お父さんとお子さんで揃って検定に挑戦する親子や、「10連大皿けん玉」をずっと根気強く練習する女の子、初めてけん玉に触ってみる小さいお子さんなど、それぞれけん玉を楽しんでいました。

けん玉やってみよう！の会は、月に1回開催しており、マイけん玉を持参してけん玉目当てに来館されるリピーターの子がいるなど、人気のプログラムとなっています。けん玉名人に教えてもらいたい方や、自分のけん玉スキルを検定してほしい方は、ぜひ遊びに来てください。



けん玉名人とじっくり練習できます

午後はけん玉コーナーが大賑わい

「10連大皿けん玉」に挑戦

☆ぎふ木遊館公式ホームページ☆

ぎふ木遊館の施設案内、イベント情報等を掲載しており、毎月開催するいろいろな木育プログラムも紹介しています。また、ホームページの「事前予約のお申込み」から各種予約ができますので、ぜひご活用ください。

やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（愛称ｍｏｒｉｎｏｓ）で実施しているプログラムについてご紹介します！

<はだしの森　メンテナンスワーク>

morinosでは、森に親しむ入り口となる様々なプログラムを開催しています。今回ご紹介するのは、数か月に1回開催している「はだしの森　メンテナンスワーク」です。

みんなで森や土、健康のことを勉強しながら「はだしで歩ける森のトレイルを作ろう!」と、３年前に試行的に始めた「はだしの森プロジェクト」。はだしの森は２０２３年度にひとまず完成しましたが、森もトレイルも常に変化し続けるため定期的な整備が必要だ、と参加者から提案がありました。そこで、「はだしの森プロジェクト」でもお世話になったはだしの専門家・金子潤さんをお呼びして定期的にはだしの森を整備する活動が始まりました。

１０月に行った活動では、森の入り口にあるヒューゲルカルチャーの整備としがらみ（柵）作りを行いました。ヒューゲルカルチャーとは、枯れ木や枝、草やコンポストを敷いた上に土を被せて作る苗床のこと。しかし、ここにいるミミズを狙うイノシシに掘り起こされ、周辺の植物はなぎ倒されていました。まずは掘り返された土を戻してヒューゲルカルチャーを整えました。落ち葉や草を使って表面のマルチングも行い、土壌保護と保湿を図りました。

しがらみ作りでは、以前作った箇所を補強し、足りない部分に追加しました。しがらみを作ることで、通るルートが分かりやすくなり、さらに土壌の流出を防ぐことができます。森の素材で作ったので自然にも優しいです。

荒らされてしまったヒューゲルカルチャー

マルチングを施して整備

しがらみ作りの様子

１２月の活動では、落ち葉の収集と敷設、排水溝の補修を行いました。１２月ともなると周辺の樹木は落葉していました。落ち葉を集めてはだしの森に敷くと、ふかふかの道に様変わりしました。歩くと気持ちが良いだけでなく、時間が経つことで落ち葉が腐葉土化し、土壌菌類と馴染むことで土壌の改善にもつながります。

また、大雨が降った際に森の中が水浸しになったことがありました。排水溝の水がはだしの森に溢れていたことが原因でした。金子さんから排水溝の構造について説明を受け、参加者で排水溝を補修しました。

森へ敷設する用の落ち葉収集

整備後のふかふかなはだしの森の様子

雨を伝わせる枝を差し込んだ排水溝

こんな感じで私たちだけでなく動物も、植物も、きのこも、みんなが気持ち良く利用できるはだしの森になるよう、仲間たちと一緒に笑い合い学びながらメンテナンスをしています。森の変化や反応を体感しながら、ゆっくり森を整備する楽しさがどんどん広がっています。皆さんもご一緒しませんか？ 次回の活動日についてはmorinosHPをご覧ください。

morinos HPでは、こうしたプログラムから日常風景まで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、YouTube動画をご覧ください。

ホームページ　https://morinos.net
YouTube　検索「morinosチャンネル」

開館時間　10:00~16:00
定休日　毎週火･水曜日

morinosHP

YouTube「morinosチャンネル」

シリーズ

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

11

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

カワウ等被害対策支援事業

カワウを中心とした魚食性の鳥類は、県内のアユ等の水産被害をもたらし、漁獲量減少の一因となっています。また、特にカワウについては糞害や騒音等により生活環境、生態系にも影響を及ぼしています。

こうした被害対策のため、本事業では、各漁業協同組合や地域協議会が行う、カワウ等の捕獲や追い払い等の活動を支援しています。

事業概要

カワウ、カワアイサ及びサギ類の被害対策に関する人件費、消耗品費等を補助
（少なくとも、捕獲または追い払いのいずれかに取り組むこと）

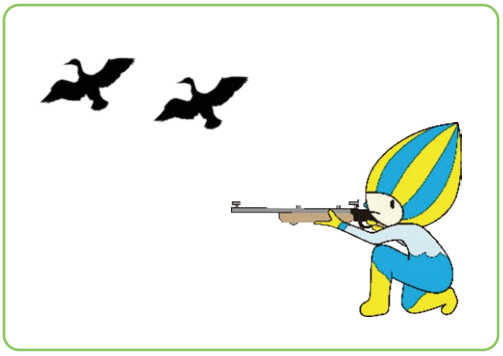
●**実施主体**：市町村、岐阜県漁業協同組合連合会、漁業協同組合　等

●**補 助 率**：10／10以内［上限：1，800千円／団体］
※ドローンの備品購入費は1／2以内

活動事例

ロケット花火・爆音等での追い払い

テグス・防鳥糸の設置



銃器による捕獲・追い払い

ドローンの活用（生息調査・追い払い等）

●詳しい内容を知りたい方は TEL058-272-1111 内線（4173）農村振興課鳥獣害対策室まで

アカデミーから 木育の多様性を広めよう

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授●前野 健

3月は卒業式シーズン。森林文化アカデミーからも約40名の学生が旅立ちます。卒業生達はこれから様々な現場で活躍していくわけですが、同時に森や木のことを伝えていく木育のプレイヤーとしての活躍も私は期待しています。

私が担当する木育の実習では、近年、専攻をまたいだメンバーで行うプロジェクトが増えています。例えば『里山で行う親子の工作プログラム』では、1つのプログラムの中で、林業専攻の学生が森の中で行うフィールドワークを担当し、木工専攻の学生が、もの作りのレクチャーを担当します。こうすることで、もの作りを学んだ学生だけで行うプログラムよりも、参加者は、より深く森について知ることができます。相乗効果として、作った作品への愛着が増すなど、プログラムの質を向上させることができるのです。

このような専攻の異なる学生の連携は、当初はプログラムの質を上げることを目的として始めました。しかし、実習を回し始めると、お互い理解しているようで実は知らなかった、専攻による考え方や、ものの見方の違いを知る相互理解の場となったのです。木を切る側（林業）と木を使う側（木工）は近いようで、それぞれの考えは異なります。また、プログラムを回してみると、森や木について深い愛着を持つ自分達と参加者との意識の差に驚くこともありました。とかく、専門の学びを深めていくと、森や木に対して「正しいことをしなければいけない」というふうに、まじめな学生ほど考えてしまうようです。しかし、社会に出れば、立場によって「正しい答え」は1つでは無いことに気付きます。共創や共生がテーマとなる、これからの社会において、他者を理解できる広い視野を持つことは、様々な場面で役立つことだと思います。

里山のフィールドワークを行う
林業専攻の学生

アクティブGで野鳥のワークショップを行う
アカデミーの卒業生

少し話がずれてきてしまったので、木育の話に戻ってみましょう。

アカデミーの卒業生達は2年間の学びを終えて、それぞれに理想の森や理想の木の活用方法を思い描き、巣立っていきます。2月に行われた、クリエーター科の学生による課題研究公表会では、林業、森林環境教育、木造建築、木工の4つの専攻の学生達が、多様性に富んだ研究と実践について発表をしてくれました（研究の要旨については、森林文化アカデミーのHPから読むことができます）。その内容の1つ1つが、森や社会を良くしていこうという視点に立った、木育のプログラムとも言えます。これらはまだ、芽を出したばかりの「小さな種」ですが、そのどれもが魅力的な将来性があり、これからどのように花を咲かせるのか楽しみです。

この多様な種のその後を知ってもらいたいと考え、一昨年より、「森林文化マルシェ※」というイベントを始めました。これはアカデミーの卒業生が集まり、森や木をテーマにした展示、物販、ワークショップなど行うイベントです。4つの専攻のアカデミー卒業生が集まることで、多様な森や木の魅力を体験でき、去年は2回目が開催されました。

昨年末には同様の趣旨で、岐阜木青（岐阜県木材青壮年団体連合会）とも連携して、JR岐阜駅のアクティブGで「森のクリスマスマーケット」というイベントを行いました。ここでは卒業生による、木のカトラリー販売や森の素材を使った雑貨店。野鳥について楽しく学ぶライブペイントやワークショップが行われ、森や木の魅力を多くの方に体験してもらいました。

森林文化アカデミーの卒業生は、森や木のプロフェッショナルであると同時に、多様性に富んだ木育のプレイヤーでもあります。私は今後も積極的に機会を作り、魅力的な木育プログラムを実践する卒業生達の活動を広めていきたいと思います。

※森林文化マルシェは昨年から「森の散歩道」と名前を変えて、美濃市で開催されるミノマチヤマーケットの中で実施されています。

●詳しい内容を知りたい方は TEL（0575）35-2525 県立森林文化アカデミー まで

木の香るぎふの施設 143

木造化

住ま居るメデイカ3号館（有料老人ホーム）

土岐市肥田町肥田字大西2673-4外

施設全景

施設の概要

事業年度	令和5年度(繰)
事業主体	株式会社YUKAIGO
構造 延床面積	木造2階建 1,576㎡
施設用途	有料老人ホーム
木材使用量 使用樹種	352㎥ ヒノキ、スギ(県産材81%)
全体事業費	395,107千円
助 成 額	30,000千円(ぎふ県産材利用促進施設等整備事業)
設 計 者	株式会社ほとり建築事務所 + Uo.A
施工業者	株式会社弘栄工務店
工　　期	令和5年11月～令和6年8月

ここに注目！！

大屋根に掛け渡されたフィーレンデールレシプロカル梁により無柱の大空間を実現しています。２層吹き抜けに架かるスパン12mのブリッジからは開放的な大開口を介し、日々うつろう季節を感じながら生活をすることができます。

利用者の様子

当施設は土岐川と川沿いの桜並木の景観を建物内に引き込んだ計画としています。街の喧騒から離れた場所に位置していることもあり景色を眺めながら開放的な空間で、穏やかに生活をする事ができます。

■問い合わせ先
(株)YUKAIGO　TEL 0572-45-2122

シカの食害を防止できる ツリーシェルターの高さを考える

森林研究所●片桐 奈々

ツリーシェルターの仕様は様々

苗木をシカの食害から保護するツリーシェルター（以降、シェルター）は、高さや支柱の本数、構造や素材など多様な仕様で市販されています。これらの中からあなたが選んだシェルターの仕様は、本当にシカの食害を防止できるのでしょうか。今回は食害防止に効果的なシェルターの高さについて考えます。

ツリーシェルターの高さとシカ食害の関係

一般的にシェルターを購入する際、高さを140～170㎝から選ぶことができます。150㎝高のチューブ型と170㎝高のネット型のシェルターを同所的に設置したヒノキ植栽地（図1）における食害の発生状況を植栽後、毎年3月に調査しました。試験地は瑞浪市で積雪は非常に少なく、平均傾斜が約23度です。雑木に対するシカの食痕や糞が見られ、頻繁にシカが訪れていると思われます。

まず苗木は両シェルターとも植栽から2年後には、多くが樹高150㎝以上となりました（図2）。シェルター内から梢端が抜け出た苗木は、150㎝高のチューブ型では約8割、170㎝高のネット型では、約4割です。これらのシェルター高を超えた苗木は、150㎝高のチューブ型の約2割で主軸を食害され、170㎝高のネット型では食害されませんでした（図3）。平均傾斜23°の場所では、150㎝高のシェルターより上部にシカの口が届いたと考えられます。このような食害はシカの生息密度が高くなるほど深刻になると推測されます。また急傾斜ほど、積雪深が高いほどシカの口が届く高さは高くなると考えられます。岐阜県の場合、150㎝高のシェルターでは苗木を食害から保護できない場所の条件がありそうです。また主軸を食害されても軽度の食害であれば成長に与える影響は小さいと考えられます。今後も苗木が食害を受け続けるか、それとも問題なく成長できるか、追跡調査する予定です。

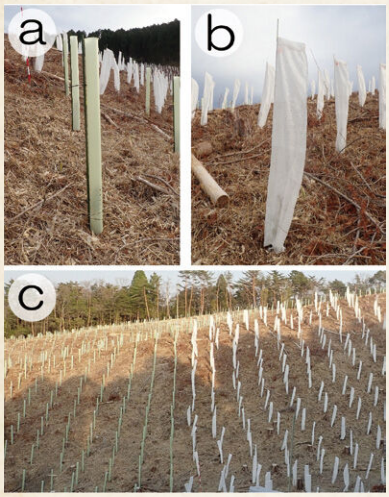


図1　ツリーシェルター試験地
a：高さ150cmのチューブ型
b：高さ170cmのネット型
c：試験地の遠景（左側がa、右側がb）

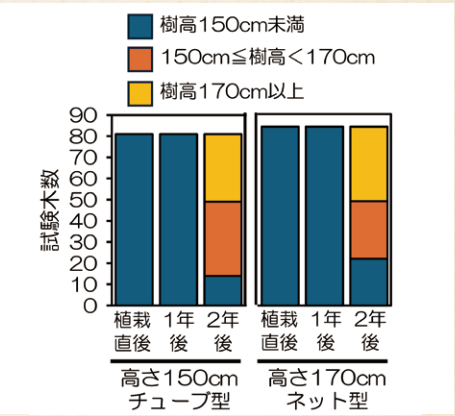


図2　各ツリーシェルターの高さまで成長した苗木の本数割合

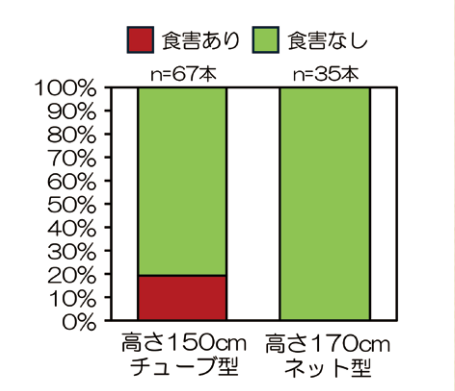


図3 植栽2年後に各ツリーシェルター内から梢端が抜け出た苗木のシカによる食害割合

さいごに

シェルターは高さが高くなるほど価格が上がり、設置の労力は増します。しかし食害防止効果の低いシェルターを選ぶと森林が成立しない可能性が高まります。選んだシェルターが設置場所で十分な効果を発揮するか、慎重に考える必要があります。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-2585
森林研究所まで

岐阜地域における普及活動について

■岐阜農林事務所　林業課
林業普及指導員　川畑

岐阜農林事務所管内は、岐阜県の南部に位置する6市3町からなる地域です。福井県と接する標高千m超の山岳地帯を有する上流域から愛知県と接する標高0mに近い下流域にわたり、森林を有するのは県都で中核市の岐阜市、各務原市、山県市、本巣市の4市です。

管内の森林面積は約5万9千ヘクタール（森林率59％）、民有林面積約5万3千ヘクタールの9割程を北部の山県市と本巣市が占め、人工林率は県平均と同程度の44％です。

県人口の約4割を占める都市部のため林業のイメージはあまりないかもしれませんが、地域や森林・林業の将来に思いをもって活動されている林業関係者が多数おり、そんな皆さんから刺激をいただいて活動しています。

今回は地域が主体となった森林づくり、担い手対策として企画・実施した研修など、今年度の取組みを紹介します。

●地域が主体となった森林づくり

森林を有する市では地域の林業関係者と共に、手入れが行き届かない森林を整備するため、森林経営管理制度に係る取組みを実施しています。

岐阜市林業会議、山県市森林づくり会議、本巣市森林整備推進会議に参加し、森林環境譲与税の活用事例や花粉発生源対策についての情報提供、森林整備に向けた助言を行いました。

地域の特性もあり、進め方は三者三様ですが、市が主体となって調査した森林を林業事業体につなぎ、集約化を進め、着実に整備する段階にあります。

機会を捉えて、林業関係者の意見を聞き、市が主体となった森林整備の取組みが円滑に進むよう、助言・支援に取り組んでいきます。

岐阜市林業会議

●GNSS測量講習会

令和6年7月、岐阜市が市内の林業事業体を対象に開催したGNSS（衛星測位システム）測量講習会を企画段階から支援しました。

参加者が林内でGNSS測量を実施する中、操作方法や注意点を説明しました。また、補助事業で活用する際の基準や検査方法、測量成果を森林クラウドに取り込む方法等について説明し、補助事業申請用の図面等の作成方法を例示しました。

参加者からは、現場での活用を想定した具体的な質問が多数あり、GNSS測量の特徴や活用への理解が深まりました。

GNSS測量機を導入する林業事業体は増えており、活用機会が少なく、取り扱いに不慣れな林業事業体を支援する予定です。

GNSS測量講習会

●高校生を対象とした間伐実習

令和6年10月、岐阜農林高校森林科学科の2年生を対象に間伐実習を行いました。森林内での実習経験がなく、間伐について詳しく学ぶ前の生徒が「林業って面白いかも」と興味を持てるよう、管内の県林業士長の協力を得て企画しました。

当日、生徒は班ごとに将来の森林の姿を決めた後、プロット内の木を見て、残したい木、すぐに伐る木を選びました。その後、各班が目指す森林の姿、選木理由を発表。講師の講評で木を見るポイントを学んだ後、伐倒・玉切り実演を見学。迫力に歓声が上がりました！

実習後のアンケートでは「難しく大変そうだけど楽しい仕事、大切な仕事」「林業系で働くことも考えてみる」「放置されている森林が多くあり、それらをどうしていくか考えていきたい」など前向きな意見がありました。

取組みを続けるため、高校と地域の林業関係者とのつながりづくりをサポートしたいと考えています。

選木実習

●林業労働災害レスキュー訓練

令和6年11月、岐阜市消防本部山県消防署と連携し、林業労働災害レスキュー訓練を実施しました。

119番通報訓練、自立歩行が困難な傷病者を移動させる訓練、心肺蘇生法、三角巾を使った止血法及び固定法などの応急処置訓練、救急箱の点検を行いました。

事故を想定した備えの大切さを学んだ参加者が今から備えたいと考えたのは、作業現場の位置(緯度経度を含む)の事前把握、救急搬送を想定した経路(車が入れる場所)の事前確認、救急箱の点検や救急キットの持ち歩きなどです。

管内での訓練開催は4回目、今後は林業事業体の自主的な取組みを促したいと思います。

応急処置訓練

●終わりに

人工林が利用期を迎える中、主伐・再造林を推進していますが、岐阜地域もシカ対策なしでは森林の更新が難しくなっています。シカの食害にあい、林床の植生が乏しい(シカの嫌いな植物しか生えていない)森林を見かけます。

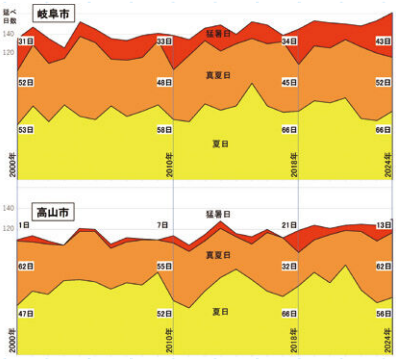
植栽した木が成林するよう、森林研究所、森林文化アカデミー森林技術開発・支援センターの力も借りながら、植栽後の管理やシカ被害の防除に係る技術の普及に取り組みます。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 058-214-7409
岐阜農林事務所まで

森林技術開発・支援センター きのこ通信 ⑦
しいたけ生産者さん!暑い時期の管理に気を付けて!

2024年は10月に岐阜市で真夏日(最高気温30度以上)を観測し、いつまでも夏が終わらない年だった気がします。

気象庁が公開している観測点データでも、岐阜市と高山市のどちらも2018年ごろから猛暑日の年間観測日数が増えていました。



2000~2024年の岐阜市・高山市の猛暑日等観測日数(気象庁公表データによる)

しいたけの栽培は、冬期に原木や菌床に植菌し、数カ月かけて菌をまん延させ、気温が下がった秋頃にしいたけが出る、というのが大まかな流れです。

良いしいたけを収穫するには、しいたけ菌が原木や菌床内に拡がる気温の高い夏場に、しいたけ菌の成長に適した環境を保つことが生産者に求められます。

そこで大切な管理のひとつが、暑さに注意することです。

私の住む岐阜市では、夏に早朝から暑いと感じることが増えました。

一方、山間地や高標高地では明け方に気温がきちんと下がるため、「日中が暑くなったけどしいたけ菌には影響ないだろうから昔と同じ管理をしている」と生産者から聞くことがあります。でも、最近の日中の高温は、各地のしいたけ菌にとってかなり不安な要素になっているのです!

岐阜県森林研究所では、菌床を41℃の環境へ15分間置いただけで、極めて悪い影響が生じることなどを確認しています。(暑さ対策の無いハウスの天井付近なら、ありえそうな環境ですよね。)

このことは、「森林のたより」2023年3月号と2024年6月号で紹介しており、ウェブでも公開していますので、生産者さんは、夏の管理の前にぜひ一読をお願いします。対策に悩まれたら、アカデミーの当支援センターへご相談ください。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-35-2535
森林文化アカデミー 技術普及係まで

国有林の現場から 101

「安全安心」地域とともに 治山事業の現場見学会を開催

飛騨地方には数多くの温泉地がありますが、特に北アルプスの麓に位置する高山市の奥飛騨温泉郷との地名が付けられた地域には平湯温泉や新穂高温泉など五つの温泉地があり、海外からも含め多くの方が訪れ温泉を満喫されています。

これらの温泉地の上流部には飛騨森林管理署の管理する国有林があるのですが、その一つに福地国有林があります。名前のとおり奥飛騨温泉郷の一角をなす福地温泉の上流部に位置する国有林ですが、この林内を流れるオソブ谷は急峻な地形もあり林地崩壊による土石流がこれまで何度も発生するなど下流域の安全が脅かされてきた地域でもあります。

オソブ谷には本流だけでもこれまで20基以上の谷止工等を当署では施工してきましたが、渓流の安定を図るため現在でも谷止工を新設するなどの対策を進めているところです。

本年度施工した谷止工

ただこれまで当署が実施している治山事業について下流の集落である福地温泉町内の住民があまり目にする機会がなかったことから今後の事業を推進するにあたり地域の住民に知っていただき、必要性を感じていただくことが必要と考え地元住民を対象とした見学会をこの度実施しました。

概要等の説明を聞く参加者

工事の概要や今後の計画について説明を受けた参加者は谷沿いに施工された過去の工事なども目のあたりにしながら自分たちの水源にもなっている上流部でこれほどの工事が行われていたのかと感心された様子でした。

参加者からは「これだけの工事を行っていたとは知らなかった」「安心した生活を送れるのもこのような取り組みのおかげ」などの感想も聞かれました。

当署では地域の安全安心と健全な林地への回復を目指し今後も地元行政や地域住民などの関係者と連携しながら治山工事の推進に努めていきたいと思います。

～温泉メモ～

福地温泉の泉質は単純泉・炭酸水素塩泉でリウマチや皮膚病、神経痛などの効能に加え、美肌効果もあることから女性に人気の温泉です。高山駅からバスで約1時間のところにあります。

（飛騨森林管理署）

森林・林業関係イベントカレンダー（4月）

林業者向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	場　所 申込（問合せ）先／TEL
4月16日㈬～ 4月18日㈮	**伐木等の業務（チェーンソー）に係る特別教育**	●講習時間：16日　学科　8:50～17:10 17日　学・実　8:50～12:30 18日　実技　8:30～17:10 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：24,200円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	16日（学科）17日（学・実） ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 18日（実技） ㈱木の国　土場（山県市椎倉203-1） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
4月23日㈬	**刈払機取扱作業者安全衛生教育**	●講習時間：学科　8:55～15:20 実技　15:30～16:30 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：11,770円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195

コラム

1年前の2月、妻の母親が亡くなりました。85歳でした。商売人でエネルギッシュな人でしたが、脳出血で突然の出来事でした。5ヶ月後、家族の悲しみが少し癒えた7月に私の母親が亡くなりました。後を追うように父親も9月に亡くなりました。親達が短い間に相次いで亡くなりました。

さらに、昨年12月の年の瀬が迫った頃、妻の父親が心筋梗塞で倒れました。幸い、治療が早かったため、無事に退院することができ、家族一同ホッとしたところです。

色々あった1年でしたが、今年は皆が健康で、良い年にしたいものです。

「森林のたより」編集委員　水谷 和人

イベント情報　4月1日発行

連載
- 山の歳時記（236）

清流と森と親しむ
- 森林と人を活かす知恵（147）

木と親しむ
- 岐阜県の公共木造建築（144）

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術
- 研究・普及コーナー

市況情報　**その他**

4月号予定

木材市場

木材市況　県森連　岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎥当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1876回 岐阜共販所 2月12日	すぎ	3m	16～18cm	14,600	—	→
		4m	16～18cm	14,000	—	→
			20～22cm	14,500	—	→
			24～28cm	14,400	—	→
			30cm以上	13,000	23,400	→
		6m	16～22cm	17,200	—	→
	ひのき	3m	16～18cm	21,100	—	→
			20cm以上	18,900	—	→
		4m	16～22cm	20,700	—	→
			24～28cm	19,000	—	→
			30cm以上	18,700	180,000	→
		6m	16～18cm	—	—	→
第1471回 飛騨共販所 2月12日	すぎ	3m	16～22cm	14,000	—	→
		4m	24～28cm	14,400	—	→
			30cm以上	12,000	—	→
	ひのき	3m	16～18cm	20,000	—	→
		4m	20～22cm	19,500	—	→
			24～28cm	20,800	—	→
			30cm以上	23,000	120,000	→
		6m	16～20cm	—	—	→
	ひめこ	4m	24～30cm	12,500	—	→
			30～38cm	15,000	24,800	→
		5m	40cm以上	—		→
	くり	4.2m	24cm以上	15,000	72,500	→
第1805回 東濃共販所 2月6日	すぎ	3m	16～22cm	14,000	—	→
		4m	24～28cm	14,000	—	→
			30cm以上元	15,000	—	↗
	ひのき	3m	16～22cm	20,300	37,000	→
			24～28cm	19,200	37,000	→
			30cm以上元	28,000	39,000	→
		4m	13cm以下	12,000	—	↗
			16～22cm	20,500	—	→
			24～28cm	19,200	34,000	→
			30cm以上元	29,000	79,000	→
		6m	18～22cm	29,500	—	→
	まつ	4m	30cm以上元	—	—	→

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギ4mの元木、尺上良材は、入札多数で活気あり、価格は保合。スギラミナ向け3m·4m材は保合。ヒノキ元木良材4mは入札旺盛で活気あり、価格は強含みで引き合いは強い。ヒノキ3m·4m構造材の価格も保合で推移。合板向けは弱基調。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

スギ·ヒノキ並材は横ばいで推移。広葉樹は出材も多く良材は応札旺盛だが並材については価格が伸びない。高値はヒノキ4m×46cm@120,000円、イチイ4m×30cm@180,000円、クリ4.2m×40cm@72,500円、ナラ2.1m×38cm@46,500円、マクルミ3m×38cm@37,200円、カエデ1.6m×40cm@48,550円、クスノキ3.8m×58cm@63,330円、エンジュ3m×14cm@40,000円。(飛騨)

ヒノキは、役物良材が応札多数で活気。3m·4mともに尺上·中目良材も地元工務店を中心に強気は継続。3m柱向け、4m土台向け、中目材も引き合いは強く価格は強含みで推移。スギは、中目、尺上、元木良材が底堅く価格は保合で推移。目荒等並材は価格も伸び悩み売りづらさは継続。4m24cm以上構造材は保合、同3mも保合で推移。6m長柱向け(18cm～22cm)は各方面から要望があり造材をご検討下さい。合板向けは、原木受入調整軟化、価格保合。ラミナ向けはスギ、ヒノキともに活発な動きあり。(東濃)

製品卸売標準価格(1月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm) 長	巾	高	等級	m³当り価格	(本(枚)単価)	前月比較
スギ	柱	3000	105	105	1等	68,000	(2,249)	→
	間柱	3000	105	30	1等	70,000	(662)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	80,000	(3,528)	↑
	柱	3000	120	120	特等	75,000	(3,240)	↑
		6000	120	120	特等	155,000	(13,392)	→
W集成材 ウッド	柱	3000	105	105	国産5層	85,000	(2,800)	→
		3000	120	120	国産5層	88,000	(3,800)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場　全てKD材)

外材市況(1月期)

単位:100円(1㎥当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	396	→
	コースト(目荒)	414	→
米栂	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに?～木材用語～

どうぶち 胴縁

外壁材や内装材の下地として使われ、壁材や羽目板を取り付けるために水平に張る材。以前は柱に未乾燥材が使われることが多く、胴縁で乾燥変化を吸収していたが、集成管柱の使用で内壁の胴縁施工は省略される傾向にあり、近年は外壁通気層を確保するために外壁側に通気胴縁として使用することが多い。

(参考)日刊木材新聞社　木材·建材用語辞典